

受講番号 19028 学校名 高知北高等学校通信制 氏名 山本 知加

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) H19新規入学生以外 生徒数 220 名
科目名 英語 I・OC I 単位数(授業時数) 3・2 時間 使用教科書名 All Aboard! English I /Hello there! OC I

クラスの様子・特徴

年齢も本校に入学するに至った過程も様々だが、高卒の資格を得るという目標は皆同じである。ただし単位さえもらえればよいといった生徒も多く、英語に苦手意識を持っている。必ずしも理解力が低いわけではなく、学習のきっかけを失ってきたようにも思われる。

問題の確定

明るく楽しい雰囲気を作り、学習に対する動機付けと、苦手意識をなくし「やればできる」という自信をもたせることが必要である。

予備調査

A 授業の観察

授業は静かで熱心に聞いている生徒もいるが、教科書・学習書を持っておらず、ただ座っているだけでやる気を感じられない生徒も多い。寝ていたり、別のレポートをしている生徒もいる。リーディングはそばに行くと個々に当てると小さい声だがレポートできる。

B 生徒による授業評価

授業のスピードや声の大きさ、黒板の文字等については満足しているとの回答が多い。授業始めの導入プリントは好評である。よくなかった点(反省点)については、自分の意欲、学ぶ態度を上げる生徒も少なくなく、私の観察と一致している。

C 学力データ

昨年度の定期試験はほぼレポートから出題し範囲も狭いということもあり平均点は悪くはないが、年度当初に行った基礎学力小テストでは一般動詞や助動詞などの基礎的事項もできていない生徒が多かった。約60%の生徒が中学の初めからわかっていないと答えた。

リサーチ・クエスト

学習意欲が乏しく英語に対して苦手意識を持っている生徒たちが、少しでも「やってみようか」という意欲を持ち、英語に興味を持って取り組むようになるにはどのような指導が効果的か。

仮説・実践・検証

仮説1

授業の導入部で、生徒が英語への興味を持つような工夫をすれば、少しでも関心を持ち、「やってみよう」との意欲が湧くのではないかと。

実践1

1. 授業の始めに英語でショート・トーク(天気、夏休み、テスト、趣味、星座等):英語の雰囲気作りを行い、話を聞く態度を養う。私の考え方をわかってもらうことで、私を身近に感じてもらい、楽しい雰囲気を作る。
2. ウォーム・アップ用のプリントの工夫:英語に関する楽しい知識や情報を与えて、英語に関心を持ち「やってみようかな」という気持ちを起こさせる一つのきっかけになるようなプリントを作成する。

検証1

1. 内容が理解できたかのアンケートでは、約60%が「わかった」、「ほぼわかった」と答えた。ただし、冗談を入れながら話しても楽しい雰囲気を作るのはなかなか難しかった。
2. 約60%がよかった、おもしろかった、参考になった等のよい評価であった。英語の歌、車の名前で英語をチェック、インターネットの英語などへの関心が高かった。またプリント学習後は授業にもスムーズに入っていた。

仮説2

ビデオを使った授業で、視覚と聴覚両方に訴えることで、英語に関心を持つきっかけになるのではないかと。

実践2

1. BBC製作「英語の歴史」のビデオを用い、多様な英語の紹介と変遷、英語に関する様々な現状を学び、英語学習の必要性を認識させる。
2. 黒人音楽、特にゴスペル、教会音楽、ジャズについてのビデオで、その起こりや当時彼らを取り巻いていた状況を学び、彼らの人生観を知る。自分たちとの比較にまで考えを深めてほしいと考えた。

検証2

1. 「今まで知らなかったことを知った」「これからさらに全世界で英語が使われるようになるので、英語学習の必要性を感じた」など好評を得、感想では26人全員が何かを学んだと答えた。
2. 35人中34人が「不幸な生い立ちでも人生を楽しんでいる」「歌を通して人生を表現している」「他にも聞いてみたくなった」など、肯定的な感想を書いた。外国の音楽に興味を持っている生徒も多く、関心も高かったと思われる。

仮説3

授業が少なく直接彼らと話す機会が限られている中でも、レポートやテストに意見や質問ができるような工夫をし、添削を通して一人ひとりの対話を行えば、少しでも生徒との関わりを保つことができ、また彼らの意見を授業に反映できるのではないかと。

実践3

1. テストやレポートの中に、スクーリングやレポートに関する意見や質問のコーナーを設け、生徒の実態を常につかむよう心がける。
2. 生徒からの意見や質問に対して丁寧にコメントする。質問や意見がない場合でも、少しでも良い所を見つけ、意欲を持って取り組めるような励ましや褒めるコメントを書く。

検証3

1. 「よいと思う」が44人中28人で、「文法が難しい」「会話をしてみたい」などその時々を感じることを書いてくれた。ただし、自由記入としたため最終レポート以外はせつかくのコーナーが空白であることも多く残念だった。
2. 「いつも先生がコメントを書いてくれるのうれしい」等、「よかった・励みになった」が46人中37人で、生徒のやる気に役立ったと思われる。コメントの仕方を工夫しながら続けていきたい。

研究の成果

もともと静かでおとなしい生徒が多かったため、授業中の態度はこの1年でこれといった目に見える変化はあまりなかったが、アンケートを見る限りこちらが色々な方法で英語に興味を持ってもらえるよう工夫し努力をしていることは伝わっており、今までよりも英語に関心を持ち、英語学習の必要性を感じ、苦手意識を少しは克服したとの回答も多く、リサーチで取り組んだ効果があったと思われる。また、特にオーラルでは55人中35人が試験の点数が上っており、「やってみようか」との気持ちで意欲を持って自分なりの努力をした成果だとうれしく思う。「やればできる」との達成感を持ち、新たなやる気につなげてほしい。

今後の授業改善の課題

通信制は授業時間数が大変少なく、出席する生徒も毎回同じとは限らず継続した指導が難しい。だからこそ毎時間の授業が非常に重要であり、「わかった」と思える授業を目指し効果的な指導を工夫していかなければならない。生徒がやってみようという気持ちになるには、常に生徒の実態や関心事にアンテナを張り巡らす必要があるだろう。また、通信制は自学自習が大半であり、レポートの内容自体の検討と工夫も継続しなければならない。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-832-2182

電子メール